

## は し が き

いわゆる「白書」らしからぬ、前向きな白書をとり、いろいろ討論した結果、ようやく発刊することができました。

この白書のねらいは、市民生活の側から都市としての横浜の現状と、それに対応する市政が、いまどういう状態におかれているのか、その一つの決算書をつくろうとしたことにあります。その現状の分析のなかから、これまでの反省と、横浜市の新しい方向を導きだそうとしました。

そこでその構成として、1章で、市民の姿をいろいろな角度から明らかにし、2章ではそうした市民が横浜経済のなかでどこから、どのようにして収入をえているかをとりあげました。3章では、その所得をどのように消費しているかをとりあげ、家計支出の分析をおこない、4章では、市民がどんな意識を持ち、どんな社会活動をおこなっているかをとりあげました。そして、そうした市民がどのような生活環境のなかで生活しているかを、5章で明らかにしました。最後にそうした市民生活に市政がどのような関連にあるかを、6章として財政の面からみることにしました。

以上のような構成で、全体をまとめたのが総論ですが、はじめのねらいを、必ずしも充分はたしえたといいたいばかりかまた、市民生活のすべての分野にふれることもできませんでした。

本書の作成は、市にとってはじめての試みであるばかりでなく、着手したのが昨年9月で、かなり短期間に準備、討論、執筆しなければなりません。不備な点、不十分な点があるとすれば、調査室の責任であります。どうかきたんのないご批判、ご意見をよせていただき、40年版は、さらに充実したものにしていきたいと思えます。

この白書の作成にあたって、市大、関東学院大、神奈川大、国大の横浜四大学を中心とした約40名の学者、研究者の方々を白書編集委員として、それぞれ討論、執筆に参加していただきました。このことも、横浜にとってはじめての試みであり、さらに、関係機関その他、多くの人々の協力をえました。

ここに、そうした方々の積極的なご協力をえたことに、厚く感謝の意を表したいと思えます。

総務局調査室 鳴 海 正 泰